

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	小学部 98人 中学部 50人 高等部 106人 合計 254人

1. 使用状況

寄贈物品名	屋外複合遊具
使用学年及び人数	小学部 98人
使用頻度	全日(野外活動可能日)
使用状況	<p>日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、体育、自立活動等で使用している。雨天時以外、児童生徒が屋外で活動したいとき、友達と一緒に遊びたいときに使用している。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>屋外複合遊具が設置されたことで、遊具の選択肢が増え、同じ時間帯に多くの子どもが複合遊具で遊ぶことができるようになった。運動発達段階に幅のある知的障害の子どもたちも、自分に合った遊具を自分で選んで遊ぶ姿が見られている。また、綱上り、綱上り、のぼり棒、2列滑り台、ジャングルジム、吊り橋、ボルダリングが一つにまとまった屋外複合遊具では、単一的で固定的な動きの繰り返しにならず、サーキットのように様々な遊具に挑戦し、必要な身体の動かし方を身に付けることが遊びながらできるようになった。遊具設置によりバランスよく身体運動ができ、更に楽しみながら体力を付けることにつながっている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>小学部児童の遊びの幅が広がり、運動場に行くことを楽しみにするようになった。今後は小学部だけでなく、サーキットトレーニングのような使用目的で体格に応じた活用に配慮しながら中学部生徒にも体育的活動や休み時間の過ごし方の中で活用を促していく。また、校内の児童生徒が自然に触れ合う場所にもなり、健やかな人間関係の形成の機会にしてきたい。併せて、多くの子どもが使用できる遊具の安全な使用の仕方やマナーも児童生徒と一緒に考えていきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>寄贈された際に行った「遊具お披露目の会」では、小学部児童が大きな複合遊具に目を輝かせ、一斉に遊ぶ姿が見られました。現在も、一目散に複合遊具に向かう子どもたちの姿が見られます。今後も、より多くの児童生徒が活用できるように使用場面を増やしていきます。屋外複合遊具を寄贈していただき、ありがとうございました。</p>

2. 活用の様子

小学部2年生 遊びの指導『みをつくしランドであそぼう』

①



(上図①)丸太橋

②



(上図②)ジャングルジム (下図④)のぼり棒

③



小学部3年生 生活単元学習『遊具で遊ぼう』

⑤



(上図⑤)綱上り

④



(上図⑥)綱上り

小学部5・6年生 日常生活の指導『なかよし遊び』

⑦



(上図⑦)2列滑り台

⑧



(上図⑧)吊り橋